

被災地に希望をひろげよう

青年ボランティア ニュース

第5号 2011/5/2

民青同盟・青年ボラ

ンティアセンター

TEL0191-31-8036

喜んでもらえてうれしかった

いま全国からボランティアが続々あつまっています。初めてボランティア活動に参加して感じたことを2人の方に聞きました。

私も元気もらった

広島 田中かなさん

5月1日から初めて、ボランティアに参加しています。昨日は小学校の炊き出しボランティアに参加しました。最初は、現地の人自分たちで炊き出しもやっていて、やれることもなくて、どうしたものかと思っ
ていました。いろんな人が来たり入ったりしているから、どういう人が来ているのか現地の人も分からないから、信頼関係を作りながら、やれることを探していくのが大事なのかなと思いました。

中学生ぐらいの子が一人でキャッチボールをしていたので、いっしょに遊びました。グローブが一つしかなかったから、「もう一つない？」って聞いたら、流されたと言っていました。久しぶりに体を動かせたと話してくれたから、いっしょに遊ぶだけでも気が紛れていいのかなと思いました。

被災者の人に広島から来たと話したら「広島で何かあったら、行くから」と言ってくれ、帰り際には、最後に、「ありがとう、ありがとう」と握手をしてくれて、こっちも元気をもらいました。

ボランティアセンターブログ



ブログでボランティアセンターの様子を紹介しています。ぜひ、のぞいてみてね♪

服探しのお手伝い

山梨 宮内現さん

陸前高田の町に入ってから、20分ぐらい瓦礫の山が広がっていて胸が苦しくなりました。

昨日は、子ども服を無料で配布するボランティアに参加してきました。300箱ぐらいの段ボールが並べられている中、15分ずつ時間を区切って、お母さんたちが来る感じでした。

その中で自分に何ができるのかと考え、できるだけ服のサイズや、ジーンズ、トレーナーなど衣類の種類を分類して並べてみました。おばあさんが小学校6年生の孫の服を探していたので、この辺のサイズはどうですか？という
と、「こんな感じ、こんな感じ」と探しているものが見つかったようで、嬉しかった。

ここでは、自治体のボランティアセンターや地域の人に相談しながら、やることを見つけて取り組んでいる。ボランティアというと、瓦礫の撤去とか、力仕事のイメージがあった。現地に
来てみて、力仕事でかかわることもいいなと思うけど、それだけじゃないなと思いました。

被災した人にどうい声かけたらいいのか、とまどいはありました。「昨日のミーティングで被災した人の信頼を得た」といって
いて、最初から話しをしてくれるわけではないから、信頼を得るという意味が分かりました。長い間は入れないけど、少しでも力になったらいいなと思います。